

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標	●		<ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズの多様化・高度化、市民の自治意識の高まりなどを背景として、地域活動拠点施設などを活用した個性豊かな活力あるまちづくり ・地域的な市民交流やコミュニティ活動の活性化を図る。 ・地区住民誰もが学習できる環境づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズの多様化・高度化、市民の自治意識の高まりなどを背景として、「(仮称)北部リージョンセンター」に図書館を併設することにより、生活の利便性の向上と住民の活発な活動を促進する。 ・歴史的資源を活用した魅力の向上を図る。 ・地域住民誰もが学習できる環境づくりを目指す。 ・地域的な市民交流やコミュニティ活動の活性化を図る。 	図書館機能の充実を図るため、図書館法に基づく図書館と併設することとなったため
B. 目標を定量化する指標	●		<ul style="list-style-type: none"> ①地域交流拠点施設の利用割合 ②地域活動に参加した市民の割合 ③避難場所を把握している市民の割合 	<ul style="list-style-type: none"> ①図書館利用回数 ②図書館資料貸出点数 ③地域交流拠点施設の利用割合 ④避難場所を把握している市民の割合 	図書館を併設することにより図書館利用に関する指標を追加した
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	備蓄倉庫	21	82.17㎡	1	64.99㎡	当初事業年度H23～H26の計画をH23～H24に変更	影響なし	●	
地域生活基盤施設(地方都市リノベーション事業)	備蓄倉庫			13	64.99㎡	事業年度H24～H26地方都市リノベーション事業として追加	影響なし	●	
高質空間形成施設									
高次都市施設	集会所	256	1004.23㎡	13	1203.74㎡	当初事業年度H23～H26の計画をH23～H24に変更	影響なし	●	
高次都市施設(地方都市リノベーション事業)	集会所			430	1203.74㎡	事業年度H24～H26地方都市リノベーション事業として追加	影響なし	●	
地方都市リノベーション推進施設	図書館			207	583.91㎡	事業年度H24～H26地方都市リノベーション事業として追加	影響なし	●	
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	従前値 (イ)		目標値 (ウ)		中間値 (エ)		評価値 (オ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
				基準年度		目標年度		基準年度		基準年度		基準年度	あり	なし	
指標1	図書館利用回数	回	1年間の図書館の貸し出し人数(のべ人数)を計測し、全人口で割った数値	2.03	H22	2.80	H27	1.69	H26	モニタリング	-	H27	モニタリング	-	●
										事後評価	確定見込み ● 1.77		事後評価	△	
指標2	図書館資料貸出点数	点	1年間の図書館の貸し出し点数を計測し、全人口で割った数値	7.11	H22	8.90	H27	6.36	H26	モニタリング	-	H27	モニタリング	-	●
										事後評価	確定見込み ● 6.60		事後評価	△	
指標3	地域交流拠点施設の利用割合	%	市民アンケート調査	24.77	H22	40.00	H27	22.48	H26	モニタリング	-	H27	モニタリング	-	●
										事後評価	確定見込み ● 33.53		事後評価	△	
指標4	避難場所を把握している市民の割合	%	市民アンケート調査	74.77	H22	93.00	H27	80.62	H26	モニタリング	-	H27	モニタリング	-	●
										事後評価	確定見込み ● 83.82		事後評価	△	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	近年スマートフォン等の普及により、情報がたやすく収集できるようになったこと等から図書館資料を借りる機会が減少し、市内の他の図書館では、図書館利用が年々減少傾向にあり、目標値を達成することは難しいと考えられるが、北部リージョンセンター図書室が開館したことにより、昨年度に比べ数値の改善が見られており、オープン以来、毎月約10,000人の来館者があることから、本事業の効果が得られたと考えている。	本指標は、図書館の利用回数となっているが、計測は図書館資料を「貸し出した人数」を計測しているため、図書を借りずに図書室で読書した人や資料を閲覧した人も図書室を利用したと考えられる。「人の賑わい」を示す指標として「図書館来館者数」(平成23年度から計測機導入)をその他指標として新たに評価項目として追加した。
指標2	近年スマートフォン等の普及により、情報がたやすく収集できるようになったこと等から図書館資料を借りる機会が減少し、市内の他の図書館では、図書館利用が年々減少傾向にあり、目標値を達成することは難しいと考えられるが、北部リージョンセンター図書室が開館したことにより、昨年度に比べ数値の改善が見られており、オープン以来、毎月約10,000人の来館者があることから、本事業の効果が得られたと考えている。	その他指標として、「図書館来館者数」(平成23年度から計測機導入)を「人の賑わい」を示す指標として新たに評価項目として追加した。
指標3	市民アンケートのうち北部地域を抽出し、集会施設等をよく利用するかどうかの問いに対し、「よく利用する」「まあまあ利用する」と回答した割合について、目標値には達していないが、年々低下傾向にあった割合が本施設が開館したことにより増加した。本施設での町会会議の利用なども日常的に行われており、今後もイベントや広報など、本施設の周知を図っていくことにより、ますます増加するものと考えている。	
指標4	市民アンケートのうち北部地域を抽出し、避難場所を把握しているかどうかの問いに対し、「避難場所を知っており、いざというとき行くことができる」「避難場所を知っているが、実際いけるかどうかわからない」と回答した人の割合については、目標値には達していないものの、近年の大規模災害等により市民の防災意識が高まってきていることや防災リーダー養成講座や出前講座の実施等から年々増加している。28年度には、北部地域において、地域防災訓練が予定されており、ますます地域住民の防災意識が高まることが予想されることから、本施設においても訓練時には連携した取り組みを行い、災害時には公共施設として、避難者を一時的に受け入れられる体制を整えるなどスムーズな対応ができるよう、北部地域の防災機能を補完する施設として充実を図る。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	従前値(ア)		中間値(エ)		評価値(オ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)	
			基準年度		基準年度		基準年度				
その他の数値指標1	図書館来館者数	人/年	平成23年度より市内各図書館入り口に設置された来館者数を計測する機械による1年間の図書館来館者数(のべ人数)	1,044,797	H23	985,790	H26	モニタリング	-	H27	指標1、指標2の補完として「人の賑わい」を示す指標として追加
								事後評価	確定見込み ● 1,067,812		
その他の数値指標2								モニタリング			
								事後評価	確定見込み		
その他の数値指標3								モニタリング			
								事後評価	確定見込み		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

北部リージョンセンターの整備にあたり、地域住民によるまちづくり協議会を設置し、協働で構想計画段階から協議を行ったことで、地域住民のニーズを的確に捉え、施設等の整備内容に反映することができたことから、地域住民のまちづくりへの参加意欲の高まりと施設への愛着が深まった。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	実施した		
	実施状況しなかった	●	

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等	
北部地域まちづくり協議会の設立 (北部地域5校区の委員20名程度構成)	予定どおり実施した	【実施時期・回数】平成23年1月～平成27年4月 17回開催 【実施効果】地元協議会与行政が連携しながら、協働による計画づくりや地域ニーズを取り入れ、地域住民に親しみをもって利用してもらえる施設となった。	地域ニーズを捉え、今後も施設のPRを含め、多くの市民に活用される施設となるよう、継続実施していく。	
	予定はなかったが実施した			●
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等	
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要		
北部地域まちづくり協議会	予定どおり実施した	イベント実施や施設PR誌の作成等	北部地域まちづくり協議会	市民と行政の協働による施設利用促進のための取り組みを行い、北部地域のコミュニティの活性化を図る。	
	予定はなかったが実施した				●
	予定したが実施できなかった (理由)				
	予定どおり実施した				
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった (理由)				

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事業評価における庁内会議	公民協働推進室・危機管理担当 政策企画室・都市政策課・読書振興課	平成28年2月16日	公民協働推進室

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標③		指標④		その他指標①	
指標名		地域交流拠点施設の利用割合		避難場所を把握している市民の割合		図書館の来館者数	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
A基幹事業	地域生活基盤施設 備蓄倉庫	-	市民アンケートのうち北部地域を抽出し、集会施設等をよく利用するかどうかの問いに対し、「よく利用する」「まあまあ利用する」と回答した割合について、目標値には達していないが、年々低下傾向にあった割合が本施設が開館したことにより上昇した。本施設での町会会議の利用なども日常的に行われており、今後もイベントや広報など、本施設の周知を図っていくことにより、ますます増加するものと考えている。	○	市民アンケートのうち北部地域を抽出し、避難場所を把握しているかどうかの問いに対し、「避難場所を知っており、いざというとき行くことができる」「避難場所を知っているが、実際いけるかどうかわからない」と回答した人の割合については、目標値には達していないものの、近年の大規模災害等により市民の防災意識が高まってきていることや防災リーダー養成講座や出前講座の実施等から年々増加している。28年度には、北部地域において、地域防災訓練が予定されており、ますます地域住民の防災意識が高まることが予想されることから、本施設においても訓練時には連携した取り組みを行い、災害時には公共施設として、避難者を一時的に受け入れられる体制を整えるなどスムーズな対応ができるよう、北部地域の防災機能を補完する施設として充実を図る。	-	スマートフォンの普及等、近年の社会情勢の変化により、市内の他の図書館では利用する人数が年々減少傾向にあるが、北部リージョンセンター図書室では7月の開館以来、毎月約10,000人に利用されており、一定の効果が得られていると考えている。 今後、読書に親しんでもらえるようなイベントを実施するなど、利用促進していくことにより、更なる来館者が見込まれる。
	高次都市施設 集会所	◎		-		-	
	地方都市リノベーション推進施設 図書館	-		-		◎	
提案事業							
関連事業	(効果促進事業)多目的グラウンド	-		-		-	
	(効果促進事業)イベント実施	◎		○		◎	

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	本施設の利用促進を図るためのイベントを開催するなど、施設利用促進のための取り組みを行い、北部地域のコミュニティの活性化を図る。	大規模地震をはじめ、災害に対応できるよう関係機関との連携し、防災時の体制を整備し、北部地域の防災機能を補完する施設として更なる充実を図る。	図書館の利用促進として、利用者層のニーズも勘案しながら、図書室の利用スタイルの提案や読書に親しんでもらえるようなイベントを開催するなど、あらゆる世代が気軽に利用でき、世代間の交流などさまざまな交流ができる施設を目指す。
-------	---	---	---

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標①			指標②						
指標名		図書館利用回数			図書館資料貸出点数						
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度
基幹事業	地域生活基盤施設 備蓄倉庫	-	近年スマートフォン等の普及により、情報がたやすく収集できるようになったこと等から図書館資料を借りる機会が減少しており、図書館を利用する人数が年々減少傾向にある。このことから、1年以内の目標値の達成見込みは難しいと考えられる。しかし、北部リージョンセンター図書室が開館したことにより、昨年度に比べ数値の改善が見られ、オープン当初から毎月約10,000人が来館していることから、一定の事業効果は得られたと考えている。そこで、フォローアップについては、更なる効果を検証するため、その他の指標として、図書館来館者数を「人の賑わい」を示す指標として追加し、継続的に効果を検証していく。	-	近年スマートフォン等の普及により、情報がたやすく収集できるようになったこと等から図書館資料を借りる機会が減少しており、図書館を利用する人数が年々減少傾向にある。このことから、1年以内の目標値の達成見込みは難しいと考えられる。しかし、北部リージョンセンター図書室が開館したことにより、昨年度に比べ数値の改善が見られ、オープン当初から毎月約10,000人が来館していることから、一定の事業効果は得られている。そこで、フォローアップについては、更なる効果を検証するため、その他の指標として、図書館来館者数を「人の賑わい」を示す指標として追加し、継続的に効果を検証していく。	-					
	高次都市施設 集会所	-									
	地方都市リノベーション推進施設 図書館	△									
提案事業											
関連事業	(効果促進事業)多目的グラウンド	-			-						
	(効果促進事業)イベント実施	△			△						

※目標未達成への影響度

- ××:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △:数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- :事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ:内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ:外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ:外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	1年以内の目標値達成見込みは難しいが、本施設で読書に親しんでもらえるようなイベントを開催するなど、北部リージョンセンター図書室の利用促進を図り、その他指標である図書館の来館者数を今後の本事業の効果を図る指標として追加し、継続的に検証していく。	1年以内の目標値達成見込みは難しいが、本施設で読書に親しんでもらえるようなイベントを開催するなど、北部リージョンセンター図書室の利用促進を図り、その他指標である図書館の来館者数を今後の本事業の効果を図る指標として追加し、継続的に検証していく。	
------------------	---	---	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事業評価における庁内会議	公民協働推進室・危機管理担当 政策企画室・都市政策課・読書振興課	平成28年2月16日	公民協働推進室

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
本市の区分された4地域のうち、北部地域のみ核となる図書館が整備されていない。	・コミュニティ拠点機能に加え、行政窓口サービスや図書館を併設したことにより、地域住民の生活の利便性の向上が図られた。 ・北部地域に核となる図書館が整備され、図書館の利用を通じて学習し、情報を入手し、文化的教養を高めることができた。また、図書室に自習室や幼児コーナーを併設し、おはなし会などのこどもを対象としたイベントの開催など、あらゆる世代が気軽に利用できる施設となった。特に高齢者の利用が多く、生涯学習の場として利用されている。		
本地域では、コミュニティ拠点施設がなく、既存の自治会館を利用した町会・自治会単位のコミュニティ活動が行われている。そのため、地域コミュニティの広がりや相互交流を深められる地域交流拠点施設の整備が必要である。	以前は、地元町会・自治会の集会やだんじり会議などに人数に制限された町会館などを利用していましたが、多くの人数が収容可能である本施設を利用することにより集会等に参加する住民が増え、地域コミュニティの醸成につながった。	今後さらなる本施設の利用促進に向けた取り組みを行う。	
本地域では、地域住民誰もが学習できる生涯学習拠点施設となる施設がないため、その整備が必要である。	本施設では多種多様な講習講座が開かれており、地域住民誰もが参加できる生涯学習拠点施設となった。		
自然災害への備えに対する市民ニーズの高まりを見せており、防災体制の充実が求められている。	災害避難所となる小・中学校と連携する防災拠点支援施設として位置づけ、防災拠点バックアップ機能を持つ備蓄倉庫を設置したことで、周辺避難地への不足物資の提供を行うとともに、ボランティア受付所や救援物資の集配が可能となり、北部地域の防災機能を補完する施設として整備された。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	図書室利用の促進	・図書館の利用促進として、利用者層のニーズも勘案しながら、読書に親んでもらえるようなイベントを開催するなど、あらゆる世代が気軽に利用できる施設を目指す。	・親子で参加できるイベントの実施 ・読書に親しむきっかけづくりとなるような新規事業の取り組み
	地域交流の活性化を図る	施設のオープン以来、町会・自治会をはじめ各種団体の会議等に日常的に利用されており、今後も施設PRを行い、施設の利用率の向上を図る。また、多目的グラウンドでは、従来より地域住民で行われてきたグラウンドゴルフの利用のほか、多目的な交流が図れる空間として、さらなる地域交流の活性化を図る。	・道の駅との連携による朝市の開催による施設PR ・フリーマーケット等市民誰もが参加できるイベントの実施
	地域住民誰もが学習できる環境づくりを目指す	アンケートによるニーズ調査を行うなど、住民ニーズを的確に捉え、地域住民誰もが学習できる環境づくりを目指す。	・多種多様な講習講座実施 ・アンケートによるニーズ調査
	更なる防災機能の向上	指定管理者とともに避難所である北部地域の小・中学校と連携した防災体制を整備し、また、来館者へは災害時における対応マニュアルのチラシを配るなど地域住民の防災意識の向上を図る。	・地域防災訓練時に連携した取り組みを行う ・チラシ配布

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	施設の利用促進のための市民ニーズの把握及び更なる施設周知の促進	今後も市民ニーズを捉え、愛着をもって親んでもらえる施設を目指すとともにオープン前イベントでも実施し、好評であった「道の駅」の物産販売を定期的実施するなど、施設を知ってもらい今後の利用率アップへとつながっていけるような取り組みを行うなど、施設のPRを図り、更なる利用促進を目指す。	・アンケートによるニーズ調査 ・道の駅との連携による朝市の開催による施設PR

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		中間値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画				
			年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	予定時期			計測方法	その他特記事項			
指標1	市民一人あたりの図書館利用回数	回	2.03	H22	2.80	H27	1.69	H26	確定	1.77	H27	△	あり	→	平成29年6月	従前値と同じ	社会情勢の変化から目標値に達することが困難であると予測されるため、その他の指標として図書室来館者数「人の賑わい」を追加し、事業効果を検証していく。
									見込み ●				なし ●				
指標2	市民一人あたりの図書館資料貸出点数	点	7.11	H22	8.90	H27	6.36	H26	確定	6.60	H27	△	あり	→	平成29年6月	従前値と同じ	社会情勢の変化から目標値に達することが困難であると予測されるため、その他の指標として図書室来館者数「人の賑わい」を追加し、事業効果を検証していく。
									見込み ●				なし ●				
指標3	地域交流拠点施設の利用割合	%	24.77	H22	40.00	H27	22.48	H26	確定 ●	33.53	H27	△	あり ●	→	平成29年6月	従前値と同じ	
									見込み				なし				
指標4	避難場所を把握している市民の割合	%	74.77	H22	93.00	H27	80.62	H26	確定 ●	83.82	H27	△	あり ●	→	平成29年6月	従前値と同じ	
									見込み				なし				
その他の数値指標1	図書館来館者数	人	1,044,797	H23	/	/	985,790	H26	確定 見込み ●	1,067,812	H27	/	/	→	平成29年6月	従前値と同じ	
その他の数値指標2				H	/	/		H	確定 見込み			/	/	→			
その他の数値指標3				H	/	/		H	確定 見込み			/	/	→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		・中間評価などを活用し、計画策定段階と評価時点における情勢の変化について、適宜捉えていくことが望ましい。
	うまく いかなかった点	図書館資料の貸出人数等が増加することを目標としたが、それらは、近年のスマートフォン等などの普及による社会情勢など様々な要因の影響を受けるため目標値の達成が困難となった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	北部まちづくり協議会との協働により、計画づくりから施設整備の検討など、地域住民の意見を取り入れたことにより、市民ニーズにあった、地域住民に親しみをもって利用してもらえる施設となった。	今後も施設計画やまちづくりに市民意見を取り入れ、市民に親しまれる公共施設の整備に努める。
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		計画期間中に、適宜PDCAサイクルを回し、計画実効性の向上に努める。
	うまく いかなかった点	計画期間中に、適宜PDCAサイクルを回すことができおらず、指標の補完ができなかった。	
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成28年3月1日(火) ～3月15日(火)	平成28年3月1日(火) ～3月15日(火)	担当課へ郵便、ファックス、Eメールなど	公民協働推進室
広報掲載・回覧・個別配布	広報にてホームページや担当課の窓口で公表していることのお知らせ	平成28年3月号広報掲載	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	窓口閲覧	平成28年3月1日(火) ～3月15日(火)	平成28年3月1日(火) ～3月15日(火)		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	内田 敬(大阪市立大学教授) 篠原 千佳(桃山学院大学准教授)	平成28年3月17日	公民協働推進室	条例	独自に設置
その他の委員	柏 壽胤(北部地域まちづくり協議会会長)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことを確認された。
	成果の評価	目標を定量化する指標について説明を行ったうえで、成果の評価について妥当であると確認された。
	実施過程の評価	適正に実施されたことが確認された。
	効果発現要因の整理	事後評価内容等が妥当であると確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案の公表について妥当であると確認された。
	その他	特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当であると確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・施設での開催イベントの広報について、より注力していくようにとの意見があった。 ・図書室について、利用の仕方を提案し、利用促進に取り組むようにとの意見があった。
	フォローアップ	今後のフォローアップ計画について、理解が得られた。
	その他	特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	特になし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--